

いみず野「米一番」高品質米生産のポイント 《育苗後半～田植～除草剤散布》

- ◎コシヒカリの田植は5月15日を中心!
- ◎換気の徹底と苗生育に応じたかん水で、健苗育成!
- ◎植付深さ3cm、植付本数3~4本(/株)、浅水管理で、初期分けつを確保!
- ◎除草剤の適正な使用と水管理で、効果的に雑草抑制!

1. 田植7日前からの育苗管理（硬化後期） ~ 植傷みしない硬い苗へ ~

<管理のポイント>

温度管理の目安	○昼20~25℃、夜10℃以上
かん水管理	○かん水は、原則午前中にしっかりと行いましょう。 ○日中も表土が乾く場合はさつとかん水する程度とし、やり過ぎない!
田植7日前から	○田植え前7~5日前から夜もハウスのすそを開け、外気に慣らす。

○苗箱施薬について

葉いもち・紋枯病・初期害虫防除のため、嵐スタークル箱粒剤（～移植当日）を50g/箱施用してください。

JAから購入する苗は、苗箱施薬済のため散布の必要はありません。

野菜栽培予定の育苗ハウスで、移植前に苗箱施薬を使用する場合は、ハウスからの苗搬出後に施用してください。

（注意）苗箱施薬剤を施用済の苗箱を搬入した育苗ハウスでは、野菜の作付をしないで下さい。

2. 代かき・田植作業 ~ 「植付深さ3cm」で初期生育確保! ~

○丁寧な代かき作業でほ場の均平を!!

代かきから田植えまでの日数は5日以内を目安とする。

水を少なめにし、稲ワラや雑草をしっかり鋤込む。

○地力に応じた基肥の施用を! (基準施用量を参照)

転作跡田では、前作物や地力に応じ20~30%減肥する。

○田植始めに植付状態の確認を!!

植付深さ及び植付本数レバーを調整しながらの作業を!

苗が適正に植え付けられているかを確認する!!

栽植密度は60~70株/坪を目安とする。

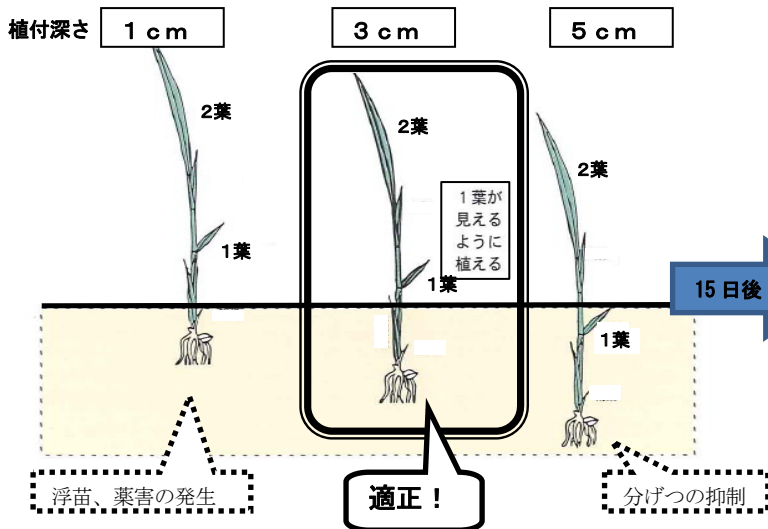
《適正な植付けの目安》

植付深さ	植付本数
3cm	3~4本/株

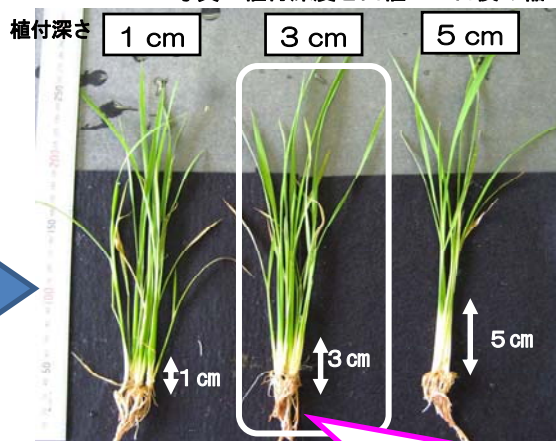
《有機Lpssコシカ4号の基準施用量(kg/10a)》

地区	施肥量
大門・大島	30~32
浅井	35
小杉	30~33
大江	30
下	30
新湊	30~32
作道・片口・七美・本江	30

植付した状態で、苗の第1葉が見えるように!!



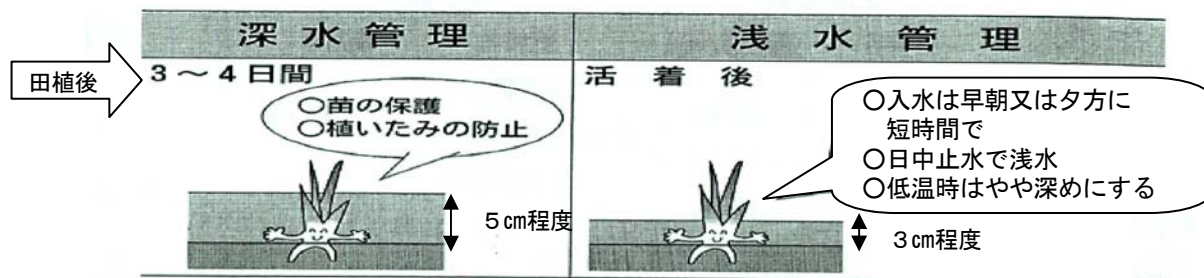
写真：植付深度と田植15日後の稲の姿



適正!! 薬害が出にくく、分けつが確保しやすい

3. 田植後の水管理 ～ 浅水管理で分けつ促進！～

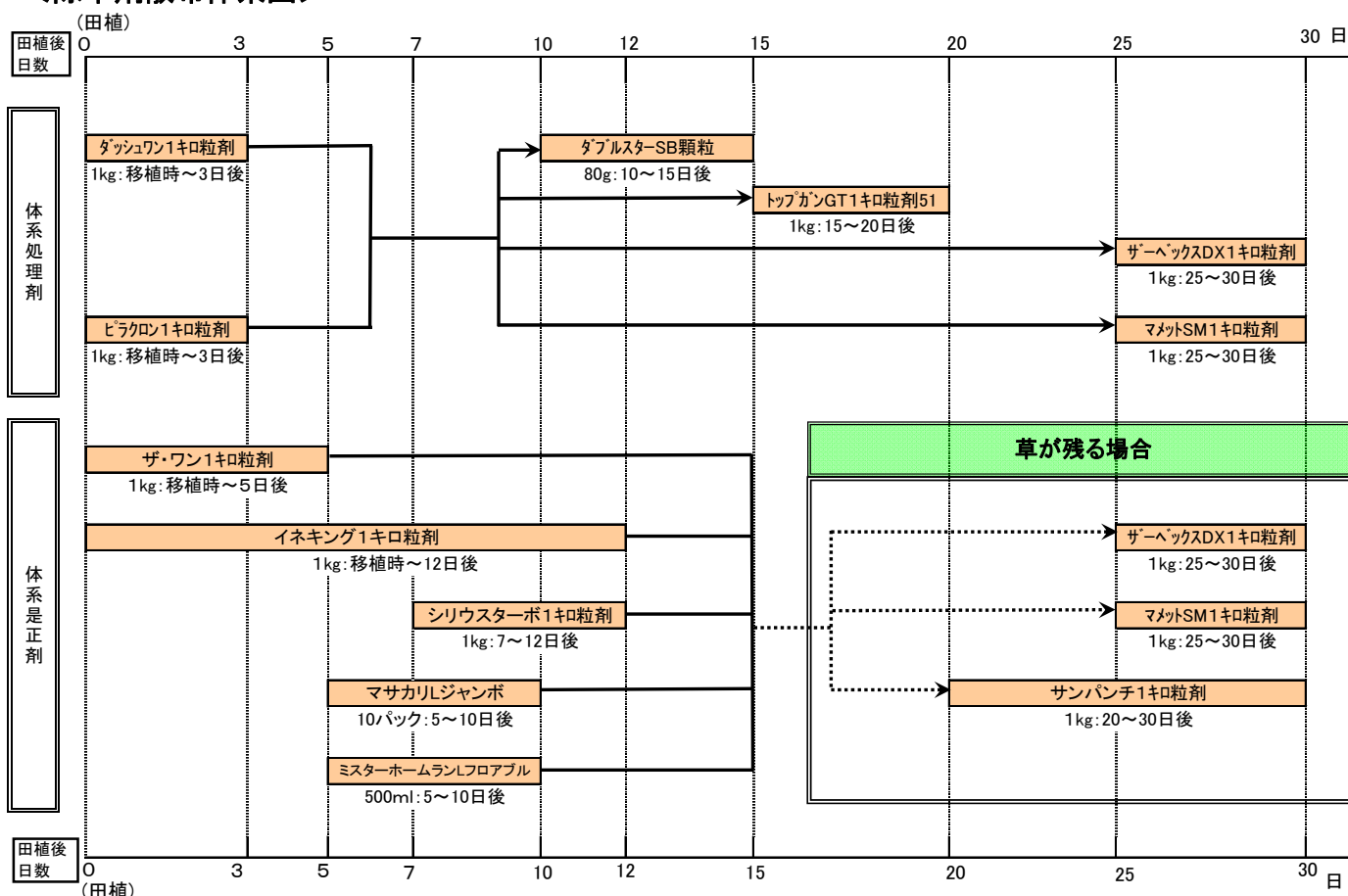
<水管理の目安>



4. 除草剤散布 ～ 使用基準を守って散布！～

- 高温となると雑草の発生が早くなります。散布は登録期間内の早い時期に使用する。
- 散布前にしっかりと湛水してから散布する。田面が露出する場合はゆっくりと足し水する。
- 散布後4～5日間は湛水状態を維持し、散布後7日間は落水しない。

<除草剤散布体系図>



※ 田植同時処理剤の使用上の注意

- ・代かきから田植えまでの日数が長くなりすぎないように、計画的に作業を行いましょう。
- ・軟弱徒長苗の使用や極端な浅植えを避け、葉害発生防止に努めましょう。

作業が終わったら、生産履歴とGAPチェックシートを記入しましょう。

【この情報に関するお問合わせは】

J A いみず野 本店第2事務所 営農施設課
高岡農林振興センター 農業普及第二課 射水班

TEL 52-6805
TEL 26-8478